

CPIS-Report-2015/08/001(Review)

2014 年度学融合推進センター年報

総合研究大学院大学 学融合推進センター



2014 年度学融合推進センター年報
CPIS-Report-2015/08/001(Review)
発行日：2015 年 8 月 16 日
発行：総合研究大学院大学 学融合推進センター
無断複写・転載禁止 Printed in Japan

目次

1	はじめに	1
1.1	推進センター事業の概要	1
1.2	推進センターの組織	1
1.3	予算	5
2	学術交流事業	6
2.1	フレッシュマンウイーク	6
2.2	日本語講座	8
2.3	学生セミナー実行委員会	8
2.4	JSPS サマープログラム	9
2.5	国際コミュニケーション	10
2.6	学術交流会	11
2.7	2015年度の交流事業	11
3	学融合教育事業	12
3.1	公募型教育事業	12
3.2	研究者入門	13
3.3	大学院教育研究会	13
3.4	SOKENDAI-UST「計算科学」共同セミナー	14
3.5	学生企画会議	15
3.6	2015年度の教育事業	16
4	学融合研究事業	16
4.1	継続課題	17
4.2	新規課題（グローバル、学融合共同研究）	18
4.3	新規課題の募集と採択	19
4.4	萌芽的研究会	20
4.5	論文出版助成事業	20
4.6	公開研究報告会	21
4.7	新課題探索：研究プロジェクト企画会議	22
5	基盤整備事業	23
5.1	新ホームページの運営	23
5.2	遠隔教育支援事業（動画配信サイトの整備）	24
6	その他の活動	24
付録 A	運営委員会記録	25
A.1	第 22 回	25
A.2	第 23 回	25

A.3	第 24 回	25
A.4	第 25 回	26
A.5	第 26 回	26
付録 B	全学事業担当教員会議記録	26
B.1	第 1 回	26
B.2	第 2 回	27
付録 C	教員研究活動報告（2014年）	27
付録 D	2014 年度行事日程	32

1 はじめに

学融合推進センター（以下、推進センター）の目的は「全学に開かれた自由闊達な学術交流を行う大学の教育研究拠点の役割を果たし、学融合による学際的で先導的な学問分野を開拓する」ことである[1]。本レポートは2014年度における推進センターの活動を報告し、大学内外からの批判と提言をいただき、将来への参考にさせていただくためのものである。

1.1 推進センター事業の概要

推進センター事業には以下が規定されている[1]。

- 学術交流事業：全学共同教育研究活動など全学の教員及び学生の連係交流事業に関すること。
- 学融合教育事業：科学の総合性及び人間の総合性を付与する全学教育事業の推進に関すること。
- 学融合研究事業：学内共同研究及びその他の研究関連事業の企画及び実施に関すること。
- 基盤整備事業：研究科及び専攻を跨ぐ共通課題のうち、集約して基盤的な整備を実施する事業に関すること。

また、特別経費プログラムの運営、実施にも協力する。特別経費プログラム「『科学知』の総合化を目指す大学院教育プログラムの推進」「文化・学術資料マネジメント教育プログラム開発によるグローバルな人文研究者の養成機能強化」が始まり、それに協力している。2014年度からは新たに特別経費プログラム「課程制大学院制度の実質化に向けた学長イニシアティブ事業」が始まり、これについては運営委員会のもとに特別委員会を設置し、主体として実施した。

1.2 推進センターの組織

1.2.1 委員会

推進センターに関係する委員会としてはまず、学融合推進センター運営委員会がある。これは推進センターにおける重要な事柄を審議する委員会である。（2014年度の審議事項については付録A参照。）

■学融合推進センター運営委員会

- センター長 平田 光司
- 各研究科から推薦された委員
文化科学研究科 比較文化学専攻 教授 笹原 亮二
物理科学研究科 天文科学専攻 教授 小林 行泰
高エネルギー加速器科学研究科 加速器科学専攻 教授 小川雄二郎
複合科学研究科 極域科学専攻 准教授 片岡龍峰

生命科学研究科 生理科学専攻 教授 南部篤

先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 准教授 印南 秀樹

- 推進センター所属の教員のうちセンター長が指名する委員 (4 名以内)

学融合推進センター特任教員 特任教授 桑島 邦博

学融合推進センター兼任教員 教授 颯田 葉子 (副センター長)

学融合推進センター兼任教員 准教授 本郷 一美

学融合推進センター兼任教員 准教授 田辺 秀之

- その他センター長が指名する者 (2 名以内)

文化科学研究科より 1 名 日本歴史研究専攻 教授 小池淳一

■全学事業担当教員会議 全学事業担当教員会議は全学事業推進室のサポートのために 2004 年度に発足したもののだが、推進センター発足後も存在し、学融合教育事業、学術交流事業について協力し、ご意見をいただいていた。2013 年度より推進センターの下に設置する諮問機関として要項が設定され、位置づけが明確となった [3]。今年度の諮問事項、依頼事項としては以下のものがあげられる。

学生セミナー : 企画準備段階においてセミナー委員 (学生) からの相談、協力依頼に極力対応いただくとともに、セミナーに参加し、改善のための提言をしていただいた。

学術交流会 : 出席、事業協力、改善意見、

推薦依頼 : JSPS サマープログラム、研究者入門等の講師、企画会議等の参加メンバーなど。

各種イベント参加 : 大学院教育研究会、公開研究報告会、などに参加していただき、ご意見をいただいた。

全学事業担当教員会議への出席 : 年 4 回程度 (各種イベントも併設予定) (付録 B 章参照)。

その他 : 学融合推進センター運営委員会が依頼する事項。公募型研究事業の査読など。

構成員は以下のようになっている。

- センター長 平田 光司

- 各専攻から選出された教員

比較文化学専攻 教授 佐々木 史郎

国際日本研究専攻 准教授 フレデリック・クレインス

日本歴史研究専攻 准教授 川村 清志

メディア社会文化専攻 准教授 芝崎 順司

日本文学研究専攻 准教授 小山 順子

構造分子科学専攻 准教授 奥村 久士
機能分子科学専攻 准教授 中村 敏和
天文科学専攻 准教授 本間 希樹
核融合科学専攻 准教授 中西 秀哉
宇宙科学専攻 教授 吉田 哲也
加速器科学専攻 教授 波戸 芳仁
物質構造科学専攻 准教授 間瀬 一彦
素粒子原子核専攻 准教授 井岡 邦仁
統計科学専攻 准教授 前田 忠彦
極域科学専攻 准教授 工藤 栄
情報学専攻 准教授 小野 順貴
基礎生物学専攻 准教授 田中 実
生理科学専攻 教授 南部 篤
遺伝学専攻 准教授 木村 暁
生命共生体進化学専攻 准教授 本郷 一美

- 推進センター所属の教員のうちセンター長が指名するもの（4名以内）

副センター長 教授 颯田 葉子
特任教授 桑島 邦博
講師 岩瀬 峰代（7月30日まで）
助教 奥本 素子

- センター長が指名する者（2名以内）

助教 塚原 直樹

■ 「課程制大学院制度の実質化に向けた学長イニシアティブ事業」特別委員会 2014年3月27日に開催された第21回運営委員会において運営委員会の下に設置されたもので、特別経費「課程制大学院制度の実質化に向けた学長イニシアティブ事業」（以下、課程制大学院事業）に関する事業実施主体として教育研究活動を担う [4]。

委員長 センター特任教授 桑島 邦博

委員

文化科学研究科長 稲賀 繁美

物理科学研究科長 中村 幸男

高エネルギー加速器科学研究科長 神山 崇

複合科学研究科長 柏木 宣久

生命科学研究所長 長谷部 光泰
先導科学研究科長 蟻川 謙太郎
学融合推進センター長 平田 光司
同副センター長 颯田 葉子
同講師 岩瀬 峰代（7月30日まで）
学長付教授 麻生 武彦（6月30日まで）

1.2.2 教員および主な役割

推進センター教員には専任教員の他、先導科学研究科から兼務する教員（以下「兼任教員」）、先導科学研究科など推進センター以外の部局から協力する教員（「協力教員」）、推進センター事業に関し、高度の専門的な知識経験を一定の期間活用して行うことが特に必要と認められる業務に従事する特任教員がある [1]。推進センターの業務は全員の協力で行うが、企画その他においては責任者、担当者を決めているものもあり、その担当をカッコで示す。なお、特別教育プログラムを担当する教員が推進センターの特任教員として雇用されることがあり、葉山を勤務地としない場合もある。

- センター長： 教授 平田 光司
- 副センター長 教授 颯田 葉子
- 特任教員 特任教授 桑島 邦博（教育事業責任者、「課程制大学院制度の実質化」特別委員会委員長）
- センター兼任教員： 先導科学研究科から推薦された教員
 - － 教授 颯田 葉子（交流事業責任者）
 - － 准教授 田辺 秀之（研究事業責任者）
 - － 准教授 本郷 一美（公募型教育事業責任者）
 - － 講師 杏掛 展之（推進センターホームページ事業責任者）
- 専任教員： 推進センター運営委員会の議に基づき学長が任命した教員
 - － 講師 岩瀬 峰代（交流事業担当、教育事業担当、「文化・学術資料マネジメント教育プログラム開発によるグローバルな人文研究者の養成機能強化」協力）（7月30日まで）
 - － 助教 小松 睦美（研究事業担当）
 - － 助教 奥本 素子（遠隔教育支援事業担当、教育事業担当）
 - － 助教 塚原 直樹（推進センターホームページ担当、研究事業補助、情報基盤センター協力教員）
- センター協力教員
 - － 学長付教授（非常勤）麻生 武彦（学術交流会担当、6月30日まで）

- 葉山情報基盤センター 助教 寺田 直美 (学術ネットワーク事業協力、10月31日まで)
- 広報室 講師 眞山 聡 (学術広報事業協力)
- 特任教員 (特別経費により雇用され、その業務を行う教員)
 - 特任教授 藤澤 敏孝 (統合生命科学教育プログラム) (プログラム長)
 - 特任教授 藤井 龍彦 (文化・学術資料マネジメント教育プログラム開発によるグローバルな人文研究者の養成機能強化)
 - 特任准教授 菊池 好行 (『科学知』の総合化を目指す大学院教育プログラムの推進)
 - 特任准教授 七田 麻美子 (文化・学術資料マネジメント教育プログラム開発によるグローバルな人文研究者の養成機能強化、7月1日より)
- 客員研究員 (推進センターの教育研究上有意義なものであって、推進センター並びに本学の管理運営上支障が生じない場合にセンター運営委員会の議を経て受け入れることができるものである。)
 - 村尾 静二

■各種委員

- 「総合教育プログラム委員会」 桑島邦博 (委員長)、颯田、岩瀬 (7月まで)、本郷、平田、田辺、
- 図書委員 塚原
- 安全衛生委員 岩瀬 (7月まで)、小松 (8月から)

■人事異動

4月1日	小松助教着任
6月30日	麻生教授退職によりセンター協力教員辞任
7月1日	七田准教授着任
7月30日	岩瀬講師退職 (鳥根大学へ)
10月31日	寺田助教退職によりセンター協力教員辞任
3月31日	桑島教授退職

1.3 予算

使用目的の定まっている特別経費分を除く実質的な2014年度推進センター予算(当初)は117,500千円であった。ここに教員、事務員の人件費は入っていない。

事業ごとの総予算は表1のようになる。

事業種別	例	予算(千円)	割合(%)
交流事業	学生セミナー、学術交流会など	7,000	6
教育事業	公募型教育事業、研究者入門など	38,000	32
研究事業	公募型研究事業、企画会議、出版補助事業など	65,000	55
センター運営および基盤整備	web改修、委員会開催など	7,500	6
合計		117,500	100

表1 学融合推進センター平成26年度当初予算(除人件費、特別経費)

2 学術交流事業

2.1 フレッシュマンウイーク

本年度から課程制大学院事業(1.2.1参照)の一貫として、フレッシュマンコースを実施することとなった。2014年度には従来の学生セミナーに「フレッシュマンコース」を加えて、一体のフレッシュマンウイークとして実施した。これは2013年度運営会議における合意に基づくものである。

学生セミナーは入学式に引き続いて行われる学生主体のイベントであり、長い伝統を持つ。現在では春、秋の2回行われ、学生によるそれぞれの実行委員会(2.3参照)が計画、実施の中心となり、推進センターは授業科目であることの観点から主にサポートと助言を行う。事後のレポートによって成績を評価する[5]。

フレッシュマンコースは教員によって企画され、2014年度春には運営会議の合意に基づいて実施された。

入学の当初に行われる専攻を越えた交流事業であり、そこで形成されたつながりがその後の全学事業への動機づけともなり、広い視野を養う上で貴重な体験となっている。また、早い時期に総合的な教育を行うことによって広い視野の獲得の動機付けとなることも期待される。

2.1.1 前学期学生セミナー

【開催日】2014年4月7日(月)～8日(火)

【テーマ】「知らねば」

【会場】学融合推進センター棟

【参加者】学生(新入生および在生)71名、実行委員15名、教員31名、講演者2名。

在学生で構成された前学期学生セミナー実行委員が企画した、新入生向けプログラムの実施(学生セミナー実行委員は、学際交流、地域交流、社会発信をテーマに活動プロジェクトを企画・実施し、その経験を学生セミナー企画に反映した)。

■プログラム

- 1日め(4月7日)
 - － オープニング
 - － セッションI「崖の上の研究者」(研究者同士のコミュニケーション): あなたは何のために研究しますか、をテーマにした教員を交えたワークショップ
 - － 夕食(意見交換会)

- セッション II 「研究と日常の神隠し」(日常と研究)：議論が進まない、という寸劇を見てもらい、解決策を考えるワークショップ
- 2 日め (4 月 8 日)
 - セッション III 「ラボの宅 Q 便」(社会発信)：社会発信について考えさせるため、「研究へのラブレター」を作り、評価しあうワークショップ。
 - セッション IV 「平成総研大合戦ぽんぽこ」(研究者の視点)：他分野の研究者として研究計画をたて、分野による違いを体験するワークショップ。

2.1.2 前学期フレッシュマンコース

■プログラム

- 1 日め (4 月 8 日、学生セミナー終了後)
 - 「総研大ガイダンス」副センター長 教授 颯田葉子 (他)
 - 「学長との懇談会」
- 2 日め (4 月 9 日)
 - 特別講義「科学と社会 1-科学と科学観の変遷」生命共生体進化学専攻 教授 長谷川 真理子
 - 特別講義「科学と社会 2-科学倫理」総研大名誉教授 池内了
 - 特別講義「科学と社会 3-科学をとりまく世界」生命共生体進化学専攻 教授 長谷川 真理子
 - 特別講義「研究者入門」遺伝学専攻長 (国立遺伝学研究所長) 桂勲
 - 特別講義「IT リテラシー概論」情報基盤センター センター長 准教授 大田竜也、講師 洞田 慎一、助教 寺田直美
- 3 日め (4 月 10 日) 研究科オリエンテーション (以下の講義がパラレルに行なわれた。)
 - 「人文分野の frame problem について」文化科学研究科
 - 「複合研究概論」複合科学研究科
 - 「物理化学と高エネルギー加速器分野における最近の話題について」物理科学研究科および高エネルギー加速器科学研究科
 - 「現代生物学序説」生命科学研究所および先導科学研究科

【参加者】75 名

2.1.3 後学期学生セミナー

【開催日】2014 年 10 月 7 日 (月) – 8 日 (火) (「日本語講座」を続けて開催)

【内 容】在学生で構成された後学期学生セミナー実行委員が企画した、新入生向けプログラムの実施。

■プログラム

- 1 日め (10 月 7 日)
 - オープニング
 - Lecture: Research and Graduate Education at SOKENDAI “Things I (mostly) learned the hard day”, Prof. Hiroshi Akashi (Department of Genetics)

- Social Game: “My New Friends”, (Mutual Introduction by a Game)
- Plenary Talks: “Expectations of new students”
 - * Dr. Lihua Zhao (TOYOTA Technological Institute (TTI) Postdoctoral Researcher),
 - * Ms. Saori Kikuchihara (Department of Physiological Sciences),
 - * Dr. Daniel Saucedo Segami, National Museum of Ethnology (MINPAKU)

- Social game, Self Introduction
- 夕食（意見交換会）
- Open Discussion

● 2日め（10月8日）

- セッション III “About Japanese culture” Prof. Ohska Tokio Kenneth, Institute of Particle and Nuclear Studies (KEK)
- Activity: Social game: Let’s make project!
- Lunch
- 鎌倉見学（日本文化紹介）

2.1.4 後学期フレッシュマンコース

● 1日め（10月9日）

- 「総研大ガイダンス」副センター長 教授 颯田 葉子（他）
- 「研究者入門」遺伝学専攻専攻長 本学名誉教授 桂 勳
- 講義「科学・技術と社会 I」
- 学長との懇談会

● 2日め（10月10日）

- 講義「科学・技術と社会 I」
- closing 副センター長 教授 颯田 葉子（他）

【参加者】学生（新生および在学学生）25名、実行委員8名、教員7名、講演者4名。

2.2 日本語講座

【開催日】2014年10月11日（土）－12日（日）

推進センター棟ホール、セミナー室、ラウンジの3カ所に別れて学習度別にクラスを作り、留学生のために日本語の入門を行なった。12日は天候悪化の予報があったため予定を少し繰り上げて終了した。

【参加者】18名（16名は新生、2名は在校生）

2.3 学生セミナー実行委員会

■2014年度前学期学生セミナー実行委員会活動内容 4月7日（月）－8日（火）の学生セミナー準備のため5日から合宿、最終の準備を行う。

5月24-25日 2015年度学生セミナー実行委員会への引き継ぎ

6月2日 社会発信班の手がけた「研究者時計」が完成、公開

■2015 年度前学期学生セミナー実行委員会活動内容

- 5 月 24-25 日 第 1 回学生セミナー実行委員会（前年度委員会との合同開催で引き継ぎを行なった。）
7 月 13 日 平成 27 年度前学期学生セミナー全体会議
8 月 4 日 2015 年度前学期学生セミナー実行委員会の一時活動停止のメール配信
全学的教育の見直しが進行中であることから、学生セミナーの準備に関しても検討を行なうこととなり、以下のメールを送付し、実行委員会の活動を一時凍結した。

平成 27 年度学生セミナー実行委員の皆さま、
急なご連絡となり恐縮ですが、「学生セミナー」事業も含めた全学教育事業全体の在り方や事業内容について、学長特命のプロジェクトチームが見直しを含めた検討を行っています。その検討作業が完了し、実施方針が明確となるまで、現在の学生セミナー実行委員会は活動を休止するよう学長より指示がありました。改めて連絡があるまで、委員会活動を停止して待機してください。活動を予定していた班別会議等の活動は、すべて一旦中止となります。
今後の実行委員活動の方針が確定次第、改めてご案内をさせていただきます。
以上、よろしく御願い申し上げます。
学融合推進センター長 平田光司

その後、実施方針が定められ、課程制大学院事業特別委員会の議を経て、委員を出していない専攻へも委員選出の依頼を行い、委員会活動が再会された。

- 1 月 23 日 委員全体会議（品川）
2 月 18 日 委員全体会議（品川） フレッシュマンコース担当教員も参加

■2014 年度後学期学生セミナー実行委員会活動内容 4 月 19 日-20 日 後学期学生セミナー全体会議（国立民族学博物館）

- 7 月 5 日-6 日 後学期学生セミナー全体会議（KEK）
10 月 5 日-6 日 学生セミナー事前準備

■2015 年度後学期学生セミナー実行委員会活動内容 役員会の指示により委員会の招集は 2014 年度には行なわれない。

2.4 JSPS サマープログラム

総研大と日本学術振興会が毎年共催で行う事業であり、米国 (NSF)、英国 (British Council)、フランス (CNRS)、ドイツ (DAAD)、カナダ (Canadian Embassy) に加えて本年度からはスウェーデン (STINT, the Swedish Foundation for International Cooperation in Research and Higher Education) も参加することとなった。国ごとの参加人数は表 2 のようになっている。カナダは偶然的な理由により本年度は参加者がいなかったが、募集方法の再検討などを行い、来年度の参加は予定通り行うこととなった。

このうち 5 名は以下の総研大教員をホストとした。

- 基礎生物学専攻教授 井口泰泉
- 遺伝学専攻准教授 木村暁
- 生理科学専攻教授 富永真琴
- 天文科学専攻准教授 中村文隆

- 生命共生体進化学専攻講師 木下充代

他に、基盤機関の教員をホストとする者3名（天文台、分子研、宇宙研）だった。

NSF	66
British Council	13
CNRS	13
DAAD	13
Canadian Embassy	0
STINT	10
計	115

表2 JSPS サマープログラム参加フェローの推薦母体ごとの人数

■主な日程

- 6月11日 開講式および Joint Staff Meeting(開講式には天皇、皇后両陛下が来訪され、フェローと歓談された。)
- 6月12日 特別授業1, 特別授業2, および日本語コース
- 6月13日 日本語授業、ポスターセッション（参加者全員が研究テーマを発表）のあとホームステイ（逗子近隣のボランティアによる）(13日夕刻ー15日夕刻)
- 6月16日 日本語授業および特別授業3
- 6月17日 受け入れ機関に出発
- 8月19日 報告会、送別会（ホテルグランドパレス）

■特別講義

1. 学融合推進センター 教授 桑島 邦博 「The problem of protein folding and its relationship to bioscience」
2. 国際日本文化研究センター 教授 John BREEN 「Inventing Ise: constructing sacred space in Meiji Japan (1868-1912)」
3. 元東京芸術大学教授 学術博士 安藤 政輝（生田流琴）「The World of Koto: Traditional Japanese Music and Instruments」。箏曲の歴史と成り立ちについての講義。安藤珠希（たまき）（琴）、石井まなみ（琴）、友常昆山（ともつねびざん）（尺八）と共に演奏も行い、最後にはフェローへの琴、尺八の入門も行う。

■2015年度の実施について 10月15日(水)14:00-16:00、日本学術振興会において連絡協議会が行われ、日程などの点について調整が行われたが、総研大役員会より総研大の役割について再検討する方針であることが表明され、連絡協議会の場でも伝えられた。

2.5 国際コミュニケーション

JSPS サマープログラムと併設する本学学生に対する講義。英語によるポスタープレゼンテーションの実践的知識をさずける。レセプション、講義およびポスターセッションに JSPS サマープログラム参

加フェローと共に参加する。総研大レクチャーとして毎年開講している。

- 6月11日 英語研修 (5時間)・JSPS フェローとの交流レセプション
- 6月12日 英語研修 (4時間)・JSPS 特別講義 (上述)・日本文化紹介
- 6月13日 英語研修 (3時間)・JSPS ポスターセッションに参加

2014年度の参加者は留学生3名を含む総研大生10名であった。

2.6 学術交流会

課程制大学院事業特別委員会(1.2.1章参照)によって準備された。

■趣旨 総研大における学術交流の推進を図るため、開催中に実施される学術講演会などの企画を通して総研大の学術研究の最先端について理解を深めるとともに、総研大教職員・在学生・修了生・名誉教授等から構成される総研大コミュニティメンバーと各専攻基盤機関とのさらなる連携を目指した、学術交流ネットワーク(All-Sokendai Academic Network, Soken-Anet)の強化を目的とした。

■内容 3月23日(月)・24日(火)に学位記授与式、長倉賞選考会と重ねて行われた。

- 23日(月)
 - － 第20回長倉賞候補者発表会「わが研究成果」
 - － 新修了生のポスタープレゼンテーション
 - － 懇親会
- 24日(火)
 - － 第20回長倉賞授賞式
 - － 本学修了生による学術講演会「総研大修了後の研究歴・現在の研究について」
 - * 堀まどか(嶺南大学校 外国人教員 / 2008年 国際日本研究専攻修了)【「文化相対主義」の日本?—韓国で教える現場から】
 - * 西原 康師(岡山大学 教授 / 1997年 機能分子科学専攻修了)【クロスカップリング反応を利用した有機合成・材料科学】
 - * 山本 麻希(長岡技術科学大学 准教授 / 2001年 極域科学専攻修了)【野生動物と人間の共存に向けて】
 - * 古瀬 幹夫(生理科学研究所 教授 / 1995年 生理科学専攻修了)【細胞シートの漏れを防ぐ細胞接着の分子機構】
 - * Tai Renzhong (Shanghai Institute of Applied Physics 教授 / 1999年 放射光科学専攻修了)【SSRF current and future : Opportunity and challenge】
 - * 田嶋 敦(金沢大学 教授 / 2001年 生命体科学専攻修了)【ゲノムからみるヒトの多様性・疾患】

2.7 2015年度の交流事業

2015年度には推進センターの改組とともに、センター事業として交流事業は消滅する予定である。交流事業の中で学生セミナーはフレッシュマンコースに、JSPS サマープログラムは国際・社会連携室の事業となる。

3 学融合教育事業

3.1 公募型教育事業

公募型教育事業には次世代研究者育成教育プログラム、国際的研究リーダー育成プログラム、総研大レクチャー、海外総研大レクチャー、学生企画による教育研究プロジェクトがあり、2014年度に実施の決まった事業（および代表責任教員）は以下のとおりである。2014年度の教育事業の審査と予算の配分は2014年2月21日にヒアリングを行い、運営委員会の審議によって配分額を決定した。

■次世代研究者育成教育プログラム 総研大の教育理念に基づき、専攻・研究科の枠を超えて次世代の研究者を育てようとする教育プロジェクトです。

- 学術交流フォーラム「学術資料から歴史を読み解く」の開催（地域文化学専攻・佐々木 史郎）
- アジア冬の学校（構造分子科学専攻・山本 浩史）
- 生命科学リトリート（遺伝学専攻・中村 保一）
- 脳科学専攻間融合プログラム（生理科学専攻・富永 真琴）

■国際的研究リーダー育成プログラム 国際共同研究・共同事業を推進できる研究者を専攻・研究科の枠を超えて育成する事業に対して助成することを目的とします。

- 国際的プレゼンテーション能力強化プログラム（基礎生物学専攻・吉田 松生）
- 体験留学プログラム（遺伝学専攻・鈴木 えみ子）
- 総研大が主導する科学英語カリキュラム：大学改革の強化推進にむけて（遺伝学専攻・小出 剛）

■学生企画事業 学生が主体となって研究科を越えて企画し、国際共同研究・共同事業を推進できる研究者の育成に効果のある事業に対して助成することを目的とします。

- 産学・地域連携による交流型環境教育プロジェクト：「奈良のシカ」の保護活動から学ぶ都市における人と動物との共生（地域文化学専攻・東城 義則）
- Sokendai Student Conference 2014（情報学専攻・Osamunia Mohamed）

■総研大レクチャー 既存の学問にとらわれない自由な発想の場を提供することを目的とします。また、他大学の大学院生等に広く開放して学術交流に貢献することを目指します。単位の認定も可能です。

- 研究者のための社会リテラシー（学融合推進センター・平田 光司、生命共生体進化学専攻・標葉 隆馬）
- ワークショップデザイン講座（学融合推進センター・奥本 素子）
- 科学コミュニケーション（広報室・眞山 聡）8月11日－13日、履修者2名。
- 日本歴研究の方法 A-資料調査法-（日本歴史研究専攻・大久保 純一）
- 日本歴研究の方法 B-地域研究の方法-（日本歴史研究専攻・柴崎 茂光）
- 日本歴研究の方 C-博物館とは何だろう-（日本歴史研究専攻・村木 二郎）
- 科学技術倫理と知的財産権—学術研究の適切なすすめ方（メディア社会文化専攻・児玉 晴男）
- アーカイブズ学集中講義（日本文学研究専攻・渡辺 浩一）

- 資料保存科学 (モノ資料・基礎) (比較文化学専攻・園田 直子)
- 学術映像の基礎 - みる・つくる 2014 (地域文化学専攻・久保 正敏)
- 国際コミュニケーション (学融合推進センター・岩瀬 峰代) 2.5 章参照。

3.2 研究者入門

7月19日－20日 葉山

研究者入門 2014 「這い上がれ」

＜大先輩からの大事なひと言 研究者の一生＞ ベテランの先生をお呼びして、研究者人生に起こる出来事やその時の対処法などエピソード とともに語っていただきます。

講師 西村幹夫 (基礎生物学専攻 名誉教授)

司会 桑島 邦博 (総研大学融合推進センター特任教授)

＜若手研究者との座談会＞

総研大卒業 10 年未満の若い修士を数名お呼びして、大学院での過ごし方やキャリア設計について語っていただいた。

- 望月 俊男 (専修大学 准教授 メディア社会文化専攻修士)
- 一戸 渉 (慶應義塾大学 准教授 日本文学研究専攻修士)
- 有末 伸子 (大阪大学 助教 生命体科学専攻修士)
- 新原 隆史 (東京大学総合研究博物館 特任助教 極域科学専攻修士)
- 鈴木 友 (金沢大学 博士研究員 素粒子原子核専攻修士)

＜ワークショップ 私は女優＞

講師 岩瀬峰代・奥本素子 (学融合推進センター)

＜研究者倫理ワークショップ＞

研究者倫理を哲学者との哲学カフェ形式で考えた。講師 寺田俊郎 (上智大学)

3.3 大学院教育研究会

日時： 12月15日 13時－17時

会場： フクラシア品川 (高輪口)

テーマ： 博士のその後を考える～世界の事情、日本の事情～

- 13:00-13:10 開会挨拶 理事 永山 國昭
- 13:10-14:00 「今、企業や社会が求める理系博士人材について」 株式会社アカリク 執行役員 長井 裕樹
- 14:00-15:00 「ドイツにおけるキャリア支援」 独立行政法人 大学評価・学位授与機構長 野上 智行
- 15:00-15:10 休憩
- 15:10-15:30 「キャリア支援に関する学会の取り組み～日本分子生物学会を事例に～」 遺伝学専攻 教授 小林 武彦
- 15:30-16:10 「アジアにおける日本人博士のキャリア形成～シンガポールを事例に～」 学融合推進センター 助教 奥本 素子

- 16:10-16:50 「パネルディスカッション～大学院におけるキャリア支援～」
- 16:50-17:00 閉会挨拶 学融合推進センター長 平田光司

終了後懇親会が行われた。

3.4 SOKENDAI-UST 「計算科学」共同セミナー

UST (University for Science and Technology) との協力によるセミナーで、テジョン (Daejeon) の UST 本部で行なわれた。単位を付与するために総研大レクチャーとして行なわれた。

■開催の経緯 2013年夏に UST の学長 Lee, Un Woo (李 銀雨), PhD が本学を訪問した際、当時の高畑学長と両大学の協力によるセミナーの開催について合意がなされ、桑島教授を中心にアイデアが検討された。

2014年2月9-12日には平田センター長と桑島教授が UST を訪問し、運営体制、プログラムの策定などについて打ち合わせを行なった。

全体運営については総研大側では学融合推進センター長の平田光司が、UST 側では Park Kap-dong 教授 (Dean of Office of Planning) が協力し、プログラムの策定、実施については総研大側は桑島邦博教授、UST 側では In-Ho Lee 教授 (KRISS, Korea Research Institute of Standards and Science) が携わった。

■プログラム 日時：7月29日(火)～8月1日(金)

場所：韓国テジョン UST 本部

7月29日(火) 開会 【天文科学・核融合科学】

- 9:00-10:30 富阪幸治 教授 (天文科学, 国立天文台) Lecture 1 "Numerical Scheme of the Finite Difference Method"
- 10:30-10:40 休憩
- 10:40-12:10 三浦英昭 准教授 (核融合科学, 核融合科学研究所) Lecture 2 "Magnetohydrodynamic (MHD) simulations"
- 12:10-13:40 昼食
- 13:40-15:10 Jae-Min Kwon (核融合科学, NFRI) Lecture 3 "Kinetic Simulation of Fusion Plasma"
- 15:15-16:45 Jongsoo Kim (天文科学, KASI) Lecture 4 "Computational Star Formation"
- 16:45-17:00 休憩
- 17:00-18:30 藤井通子 特任助教 (天文科学, 国立天文台) Lecture 5 "N-Body Simulation"
- 18:30-19:00 ポスター貼り付け
- 19:00-20:30 レセプション

7月30日(水) 【物質科学・分子科学】

- 8:30-10:00 齊藤真司 教授 (機能分子科学, 分子科学研究所) Lecture 6 "Fluctuation and Relaxation in Condensed Phases"
- 10:00-10:15 休憩
- 10:15-11:45 Yong-Sung Kim (物質科学, KRISS) Lecture 7 "Computational Material Science"

Based on Density Functional Theory (DFT)”

- 11:45-13:15 Lunch
- 13:15-14:45 Kijeong Kong (物質科学, KRICT) Lecture 8 ”Computer Aided Materials Design (CAMD)”
- 14:50-16:20 Jooyoung Lee (計算科学, KIAS) Lecture 9 ”Global Optimization Methods and Protein Structure Prediction”
- 16:20-18:20 ポスターセッション
- 18:30-20:30 懇親会

7月31日(木)【物質科学・分子科学(続き)・生命科学】

- 8:30-10:00 奥村久士 准教授(構造分子科学, 子科学研究所) Lecture 10 ”Generalized-Ensemble Molecular Dynamics (MD) Simulations”
- 10:00-10:15 休憩
- 10:15-11:45 In-Ho Lee (凝縮系理論, KRISS) Lecture 11 ”Advanced Molecular Dynamics (ADMD) Simulations”
- 11:45-13:15 昼食
- 13:15-14:45 木寺詔紀 教授(生物物理学, 横浜市立大学/理化学研究所) Lecture 12 ”Computational Science of Biological Systems I”
- 14:50-16:20 Namshin Kim (生物情報学, KRIBB) Lectures 13 ”Computational Science of Biological Systems II”
- 16:20-16:35 休憩
- 16:35-18:05 Namshin Kim (生物情報学, KRIBB) Lectures 14 ”Computational Science of Biological Systems II (continued)”
- 18:15-20:00 学生交流プログラム

8月1日(金)【全体討論・ポスター賞授与式】

- 8:30-11:00 全体討論
- 11:00-12:00 ポスター賞授与式
- 12:00-12:10 閉会
- 12:10-13:40 昼食
- 13:40-15:00 主催者打ち合わせ
- 15:00-18:00 UST 研究室訪問

日本側から7名の総研大生(情報科学専攻4名、統計科学専攻1名、核融合科学専攻1名、天文科学専攻1名)と、韓国側からは、USTやKAISTの学生と研究所のポストドクなど約60名で、総数70名ほどの参加があった。

3.5 学生企画会議

2015年度には学生企画事業をこれまで以上に推進する方針のもと、学生企画事業の公募期間中に、意見交換会を兼ねた事業の説明会を開催した。

日時：平成 27 年 2 月 7 日 (土)～2 月 8 日 (日) (7 日 15 時 30 分集合・8 日昼解散)

場所：岡崎コンフェレンスセンター 中会議室

7 日

- 挨拶 岡田学長
- 「学生企画事業の改革について」 学融合推進センター 平田光司 教授
- 「学際研究としてのサイエンス・コミュニケーション」 機能分子科学専攻 中村敏和 准教授
- 「都市型野生動物の保護活動を基盤とした環境教育事業 ―人文科学から展望する内発的な文理融合―」 地域文化学専攻 東城義則

8 日

- 「全学の学生による研究交流会、総研大ワークショップ」 学融合推進センター 奥本素子 助教
- 「来年度の学生企画に向けて」 (11:00 - 12:00) 司会 学融合推進センター 奥本素子 助教

3.6 2015 年度の教育事業

各種事業の見直し、整備および推進センターの改組案との関連で、いくつかの教育事業は廃止、または推進センターの事業から他に移管されることになった。推進センターの公募型教育事業としては (1) 学融合レクチャー、(2) 学生企画事業、(3) 次世代研究者育成教育プログラムのうち研究科学学生セミナーに関するもの、のみとなった。この内、(3) に関してはこれまでのように競争的資金とするのではなく、採択を前提として課程制大学院事業特別委員会で予算の分配を決める。また、英語教育に関するものは教育研究委員会が管轄し、総研大にふさわしい英語教育のありかたを検討した。SOKENDAI-UST 共同セミナーは国際連携室の事業となる。

■学融合レクチャー 総研大レクチャーの枠組みで、以下の条件を付加した。

- 複数研究科から担当教員が出る、
- 応募にあたっては担当代表者の所属専攻長の承認を得る、
- 応募時に実施期間や担当教員について確定しているものとし、4月にシラバスの形で学生に通知できるようにする。

■学生企画事業 これまでと同様であるが、企画の代表者および分担者には指導教員の承認を要することとした。また、複数の研究科から実施のメンバーが入っていることとした。

4 学融合研究事業

学融合研究事業の枠組みはさまざまに変わってきた。2013 年度までの研究事業の枠組みの推移については文献 [6] を参照のこと。2014 年度からは岡田学長の方針もあり、研究事業の見直しを進めた結果、新たな枠組みとしてグローバル共同研究、学融合共同研究の 2 種を設け、新規の研究課題はこの枠組みで募集を行なうこととなった。なお、公募型研究事業の予算案はそれぞれ継続 30,000,000 円、新規 23,000,000 円、萌芽的研究会および企画会議等 6,700,000 円とした。

	予算	審査による査定
継続分	30,000,000	26,700,000
新規分	23,000,000	23,000,000

4.1 継続課題

戦略的共同研究Ⅰ、育成型共同研究の継続分について2014年2月26日を締め切りとした申請が行われた。それぞれの課題について、運営委員および推進センター教員の中から専門性を考慮して選ばれた3名が書面審査の上、評価点を決め、それを参考として3月27日の推進センター運営委員会（第21回）で審議、予算案を承認した。

■戦略的共同研究Ⅰ

異分野の研究者間における共同研究を通じて、これまでに無かった観点・発想・手法・技術を用いることにより新しい研究領域・方法の開拓を目指すもの。複数の研究分野に跨る課題について共同研究を推進することにより、各研究科または各専攻間における研究交流の更なる活性化と、本学の学術研究及び教育の柱となる学問領域の創成を目指し、各基盤機関に所在する各専攻が有する優れた人的・研究的環境や、高度な専門性と叡智を最大限に活用した「総研大」らしい特色ある研究テーマへの支援を行うことを目的とする。特に、センター設立の趣旨を反映し、複数専攻に所属する研究者が共同して行う研究や「学生教育を視野に入れた研究テーマ」については、優先的に支援する。（公募要領より）

● H25～H27年度（予定）の課題

- － 自然界の様々なスケールに現れる高エネルギージェット現象の解明（素粒子原子核専攻・板倉 数記）
- － 温度感受システムの進化生理学 ―無脊椎動物をターゲットとして―（生命共生体進化学専攻・颯田 葉子）
- － 「料理」の環境文化史：生態資源の選択、収奪、消費の過程が環境に与えるインパクト（地域文化学専攻・野林 厚志）

● H24～H26年度の課題

- － 観相資料の学際的研究（日本文学研究専攻・相田 満）
- － 惑星科学と生命科学の融合：生命概念の普遍化（生命共生体進化学専攻・長谷川 真理子）
- － 在ハワイの日本歴史・文化資料をめぐる国際共同（日本歴史研究専攻・大久保 純一）
- － 手話言語学を世界へつなぐメディア発信（比較文化学専攻・菊澤 律子）
- － ニュー・ミュージオロジーの確立のための研究（地域文化学専攻・竹沢 尚一郎）（H25年度採択）

■育成型共同研究 主に若手を対象としていることから、申請の時点では十分に共同研究の準備が整っていない場合にも申請できることとし、複数年に亘る共同研究の提案であって、初年度の申請時点で複数専攻に跨る実施体制が整っていない場合でも、初年度の準備期間を経て2ヵ年目以降に本格的な共同研究の実施することを前提として提案することも可能とした。この場合、2ヵ年目以降の継続支援の条件として、他分野を専門とする本学の教員が研究分担者として実施体制に加わっていることが求めら

れる。

継続された課題は以下である（H27年度までの予定）。

- 科学技術コミュニケーションの実践理解に基づくディスカッション型教育メソッドの開発（情報学専攻・坊農 真弓）

4.2 新規課題（グローバル、学融合共同研究）

■研究課題の新しい枠組み 4月以降に大幅な見直しを行なった。大きな変更点としては次のようなものである。

- 異分野連繋の観点から、メンバーに異なる研究科・機構の教員が入る事を条件とする。
- メンバーに学生（修了生も可）を加える。
- 国際連携を推進する。

このため比較的大きな課題であるグローバル共同研究、その準備段階と位置付けられる学融合共同研究の2つのカテゴリーを準備した。それぞれの特徴は以下のようになる。

■グローバル共同研究

- 総研大を代表する研究課題であること。
- メンバー構成の条件：
 - － 外国（研究機関）の研究者がメンバーに入っている事。
 - － 基盤専攻の教員と葉山の教員がメンバーに入っていること。
 - － 学生（修了生を含む）がメンバーに入っていること。
- 期間は3年とし、最終年度には成果報告を兼ねた国際シンポジウムを開催すること（最終年度にはシンポジウム開催の補助経費として200万円程度を追加配分する）
- 毎年1課題を採択する。
- 予算は当面、年間最高1000万円、平均として800万円を想定する。

■学融合共同研究

- グローバル共同研究につながる研究課題であること。
- メンバー構成の条件：
 - － 基盤専攻の教員と葉山の教員がメンバーに入っていること（基盤－葉山型）、または研究科と機構の異なる教員がメンバーに入っていること（基盤－基盤型）。もちろん基盤－基盤－葉山という構成も可である。
 - － 学生（修了生を含む）がメンバーに入っていること。
- 期間は2年とする。
- 毎年5課題程度を採択する。
- 予算は当面、年間最高400万円、平均として300万円を想定する。



図1 グローバル・学融合共同研究の説明（作:塚原直樹）

■**萌芽的研究会** 学融合共同研究を申請する前のフェージビリティスタディとして小規模研究会開催経費を申請できるようにした。1課題30万円を上限とする。

■**論文出版助成事業** 2014年度から要綱を改正し、総研大生（修了1年以内のものも含む）が著者に入っている論文について助成することとなった。（詳細および本年度の助成実績は学融合推進センターのホームページ、「学融合研究事業 - 論文助成事業」を参照のこと。）

応募型研究課題の予算計画は表3のように考えられた。2016年度以降は支出が一定となる見込みであるが、2015年の予算は多少足りなくなる可能性がある。

年度	2014	2015	2016	2017
旧継続分	9件 (2670)	5件 (1500)	0	0
グローバル	1件 (800)	2件 (1600)	3件 (2400)	3件 (2400)
国際シンポジウム	0	0	1件 (200)	1件 (200)
学融合	5件 (1500)	10件 (3000)	10件 (3000)	10件 (3000)
合計	4970	6100	5600	5600

表3 応募型研究課題の予算計画案。カッコ内は予算で単位は1万円。

4.3 新規課題の募集と採択

6月23日の運営委員会での了承を経て、24日より募集を開始した。締め切りは8月8日である。あらかじめ依頼していた書面審査委員のなかから応募課題の分野を考慮して、書面審査評価者（グローバルは5名、学融合は4名）を選び、8月12日に評価を依頼（回答は8月21日まで）。書面審査の期間が短かったために、回答率が低いことが懸念されたが、実際にはほとんどの方から期限内に評価をいた

だくことができた。8月25日にはヒアリング審査を行い、書面審査の評価と合わせて採用課題を決定した(A.2参照)。

2014年度の採択課題と代表者は以下の通りである。

■**グローバル共同研究** 2件の応募より1件採択。

- 失われた生態システムの多様性解明に向けた古代DNA研究の展開(統計科学専攻・足立 淳)

■**学融合共同研究** 11件の応募(ただし1件はグローバル共同研究との併願)より5件採択。

- 細胞建築の博物学(遺伝学専攻・木村 暁)
- 日本列島人の起源(遺伝学専攻・斎藤 成也)
- 極域湖沼から探る生態系のメジャートランジション(生命共生体進化学専攻・佐々木 顕)
- 有害捕獲された野生動物の利用とその課程で起こる諸問題の検討ーカラスを例としてー(学融合推進センター・塚原 直樹)
- 新たな量子物理量の基礎の探求と精密測定への応用(素粒子原子核専攻・筒井 泉)

4.4 萌芽的研究会

当初は学内公開を原則としていたが、そのための準備に労力と時間がかかることから応募が無かった。このため、12月に開催された運営委員会で規則を改正し、必ずしも公開でなくとも良いこととした。また、海外の研究者を招く必要があるなど、特別な場合には50万円まで申請可能とした。

■「**動物福祉研究会**」 1月23日 総研大葉山キャンパス

代表 新村 毅(基礎生物学専攻)

■「**人間科学から見る科学コミュニケーション**」 2月12日 AP名古屋

代表 中西 秀哉(核融合科学専攻)

■「**研究記録を通じて融合的研究と教育をすすめるための研究会**」 3月9日 国立遺伝学研究所

代表 木村 暁(遺伝学専攻)

■「**文理学術基盤に関する萌芽的研究会**」 3月13日 アットビジネスセンター「東京駅」

代表 出口 正之(比較文化学)

4.5 論文出版助成事業

2014年度からは学生が著者に入っている論文に助成を制限した。このためもあると思われるが、応募件数は10件となり、2013年度の37件から大きく減った。応募金額はほとんどが10万円となっており、実際には10万円以上を必要としていることが示唆されることから、2015年度には上限を20万円とし、所属の英文表示がある場合にはSOKENDAI(The Graduate University for Advanced Studies)またはSOKENDAIと表記していることを条件とすることになった。(3月運営委員会)

採択した論文の著者、申し込み者の所属専攻、論文タイトル、掲載誌は以下のようになっている。

1. Saran Tarnoi, Wuttipong Kumwilaisak, Poompat Saengudomlert, Yusheng JI, C-C Jay Kuo

- (情報学専攻) “QoS-aware routing for heterogeneous layered unicast transmissions in wireless mesh networks with cooperative network coding” EURASIP Journal on Wireless Communications and Networking
2. 大川 都史香、佐竹 伸一郎、横井 紀彦、深田 優子、深田 正紀 (生理科学専攻) “Identification and Characterization of GABA Receptor Autoantibodies in Autoimmune Encephalitis” The Journal of Neuroscience
 3. MIN CHEULHONG, 本間 希樹、柴田 克典、廣田 朋也、松本 尚子 (天文科学専攻) “Acurate parallax measurement toward the symbiotic star R Aquarii” Publications of the Astronomical Society of Japan (日本天文学会欧文誌)
 4. 町田 史門、梶山 朋子、嶋田 茂、越前 功 (情報学専攻) 「SNSにおけるセンシティブデータの漏洩検知に基づく公開範囲の設定方式」情報処理学会論文誌
 5. 松田 貴嗣、中村 卓司、江尻 省、堤 雅基 (極域科学専攻) “New statistical analysis of the horizontal phase velocity distribution of gravity waves observed by airglow imaging ” Journal of Geophysical Research Atmospheres
 6. 川嶋 彩夏、颯田 葉子 (生命共生体進化学専攻) “Substrate-Dependent Evolution of Cytochrome P450 : Rapid Turnover of the Detoxification-Type and Conservation of the Biosyntehsis-Type” PLoS one
 7. WANGLAR Chimwar, TAKAHASHI Jun, YABE Taijiro, TAKADA Shinji (基礎生物学専攻) “Tbx protein level critical for clock-mediated somite positioning is regulated through interaction between Tbx and Ripply” PLoS one
 8. 岩田 亮平、岩里 琢治 (遺伝学専攻) “RacGAP alpha-chimaerin function in development adjusts cognitive ability in adulthood” Cell Reports
 9. Hoang-Quoc NGUYEN-SON、越前 功 (情報学専攻) “Anonymizing Personal Text Messages Posted in Online Social Networks and Detecting Disclosures of Personal Information” IEICE TRANSACTIONS on Information and Systems
 10. Erkin Kurganov, Yiming Zhou, 斎藤 茂、富永 真琴 (生理科学専攻) “Heat and AITC activate green anole TRPA1 in a membrane-delimited manner” European Journal of Physiology
 11. 福島 健児、川口 正代司、長谷部 光泰 “Oriented cell division shapes carnivorous pitcher leaves of Sarracenia purpurea” Nature Communications.

4.6 公開研究報告会

1月15 - 16日、学融合推進センター棟1Fホール

今年度から開始したグローバル共同研究、学融合共同研究、また昨年度からの継続課題である戦略的共同研究I、育成型共同研究について、口頭発表を行った。グローバル共同研究については45分、今年度終了予定の研究課題については30分とし、その他は15分という短い発表になったが、それを補うために全課題についてポスター発表も行った。ポスターの中から本学教員参加者の投票によって3件のポスター賞を決定した。両日とも41名の教員・学生が参加した。

■ポスター賞

優秀ポスター賞 木村暁

最優秀ポスター賞 塚原直樹

最優秀ポスター賞 菊澤律子

4.7 新課題探索：研究プロジェクト企画会議

2012年度に開催された「学融合研究事業のありかた検討会」を受けて、2013年度から総合研究大学院大学研究プロジェクト企画会議が開催された。2014年度には研究事業の新しい枠組みに合わせた新しい研究課題の探索を目標に行なった。

センター運営委員、全学事業担当教員、研究課題の現、および元代表、さらにこれらの方々から推薦いただいた教員に推進センター長が呼びかけ、関心のある方に集まっていただき、「総研大ならではの」研究課題について「サロン風に」話し合っていたいただくものである。

■第6回企画会議 日時：平成26年9月11日（木） 13時00分～17時30分

場所：品川インターシティ貸会議室 貸会議室4

参加者：23名

話題提供

- 「失われた生態システムの多様性解明に向けた古代DNA研究の展開」統計科学専攻 足立 淳 准教授・復旦大学 米澤隆弘 副教授
- 「研究記録のあり方研究」遺伝学専攻 木村暁 准教授

全体討論

終了後、懇親会

■第7回企画会議 日時：平成26年11月6日（木）－7日（金）

場所：総研大水沢キャンパス（国立天文台 水沢VLBI観測所）

協力：天文学専攻 本間希樹 准教授

6日

- 「誤差から学ぶ－Z項と地球回転」天文科学専攻 花田英夫 准教授
- 「研究記録のあり方研究」継続議論 遺伝学専攻 木村暁 准教授 他
- 「文化財レスキューと生活記憶の人文科学」国立歴史民俗博物館 葉山茂 特任助教（総研大修了生）
- 水沢地区見学（VLBI観測所、木村記念館、奥州宇宙遊学館）

その後、奥州市前沢区にて懇親会

7日

- 陸前高田視察（バス）

その後、自由参加で中尊寺において「浄土教文化に関するフィールドワーク」を行った。
（指導：学融合推進センター七田麻美子特任准教授）

■第8回企画会議 日時：平成27年2月5日（木）－7日（土）

場所：総研大土岐キャンパス（核融合科学研究所）（5,6日）、多治見市産業文化センター3階大会議室（7日）

協力：核融合科学専攻 中西秀哉 准教授

5日 (希望者のみ)

- 大型ヘリカル装置実験見学

6日

- 開催挨拶 核融合科学研究所長・核融合科学専攻長 小森彰夫 教授
- 「人間科学から見る科学コミュニケーション」核融合科学専攻 中西秀哉 准教授
- 大型ヘリカル装置 (LHD) 実験装置見学
- 「高輝度 X 線の 2 次元エネルギー分布画像診断法の基礎研究」核融合科学専攻 武藤貞嗣 助教
- 「古典文学における研究記録の方法」日本文学研究専攻 小山順子 准教授
- 総合討論

夜、多治見駅付近で懇親会

7日

- 「動物福祉のグローバル化」基礎生物学専攻 新村毅 助教
- 「現場主義統計学」統計科学専攻 島谷健一郎 准教授
- 「赤外線目で見る宇宙：宇宙の誕生から太陽系外惑星まで」宇宙科学専攻 松原英雄 教授
- 総合討論

5 基盤整備事業

5.1 新ホームページの運営

推進センター活動の広報を中心に推進センターの web ページをリニューアル、5月12日より新 web ページを公開した (<http://cpis.soken.ac.jp>)。「学融合のひと・こと」を設け、推進センター活動の日常をかいま見ることのできるブログも含まれる。

■**顔の見える学位記授与式** 学位記授与式に参加した修了生が参加できるプログラムとして修了生に抱負などを書いてもらいバーストショットを撮影、ホームページに紹介する。昨年度に試行したものを本年度も続行。

■**研究者時計** 2014 年前学期の学生セミナー実行委員会の学生が中心となって作成したページ。研究者が時間に合わせて登場する (2.3 章参照)。

■**YouTube 配信** 学融合推進センター公式 YouTube チャンネルを申請し、取得した。この運営にあたっては当面、推進センター教員が作成した動画のみの配信とし、アップロードに関しては推進センター長が担当理事の了承のもとに承認することを条件とした。動画は CPIS Channel として推進センターのウェブページからリンクされる。慎重を期して、これらの動画からはコメント機能をはずしてある。

2014 年度には以下の動画を配信した。

- 「総研大レクチャー『科学技術倫理と知的財産』権」
<https://www.youtube.com/watchv=rzRPVSt758Y>

■研究者交流掲示板

5.2 遠隔教育支援事業（動画配信サイトの整備）

6 その他の活動

■学融合セミナー 推進センター教員による、または教員のためのセミナーで原則として第4水曜夕刻に行い、終了後は簡単な意見交換会を行なう。昨年度までは葉山セミナーとして開催されていたが、役員会が行うセミナー、先導研のセミナーなどとの区別のために本年度からは「学融合セミナー」とした。

7月23日 菊池 好行（学融合推進センター）「実験室（ラボラトリ）って何？」

11月25日 小松 睦美（学融合推進センター）「アポロからはやぶさへ ～彗星と小惑星の物質科学～」

1月28日 長門 洋平（国際日本文化研究センター、本学修了生）「日本における映画音響研究の現在」

■推進センターニュースレター発行 推進センター事業などの案内のために年4回（5月、8月、11月、2月）発行。

編集委員会：平田（編集委員長）、颯田、眞山（広報担当協力教員）、奥本、塚原、岩瀬（7月まで）小松（8月から）。

5月（No.12）担当岩瀬

8月（No.13）担当奥本

11月（No.14）担当塚原

2月（No.15）担当小松

■CPIS Report 2012年度からの事業である。文献 [6]p.20 参照。2014年度の編集委員は桑島、田辺、塚原、平田（編集長）である。CPIS-Report-2014/11/001(Review) 2013年度学融合推進センター年報

■推進センター訪問者 1月21日 Vietnam Academy of Science and Technology (VAST) からの視察団4名が訪問。総研大の総合教育と分野横断的共同研究について説明。

訪問者：

- Prof. Duong Ngoc Hai - Vice-President of VAST, Director of GUST, VAST.
- A.Prof. Le Hong Khiem - Dir. of Institute of Physics, VAST.
- Dr. Nguyen Tien Dat - Deputy Director of GUST, VAST.
- Mr. Dang Viet Tien - Deputy Director of Human Resources Department, VAST.

ここでGUSTはGraduate University of Science and Technologyのことである。

付録 A 運営委員会記録

A.1 第 22 回

日時：平成 26 年 6 月 23 日（月）13:00-15:30

場所：AP 品川 9 階 会議室「M ルーム」

主な議題

- 平成 26 年度学融合推進センターの事業について
- 平成 26 年度学融合研究事業の新規公募について
- 次回センター運営委員会・公募型研究事業のヒアリング審査日程、審査方針について
- 研究論文掲載費等助成事業・公募要領の改正について

A.2 第 23 回

日時：平成 26 年 8 月 25 日（月）17:20-18:30

場所：品川ホテルゆうぼうと 6 F 「花梨」

主な議題

- 平成 26 年度公募型研究事業の採択・予算配分について
- 学融合推進センター教員選考及び任期更新について（机上配布）

これに先立ち、同日午前 9 時 40 分から研究事業に関するヒアリングを行なった。ヒアリング評価者はセンター運営委員である。グローバル共同研究に 2 件、学融合共同研究に 11 件（そのうち 1 件はグローバル共同研究との併願）の応募があり、前者は 40 分、後者は 20 分で発表と質疑を行なった。

まず、グローバル共同研究の 2 件についてヒアリングを行い、討議の後に投票を行なった。書面審査の評価およびコメントはヒアリング審査員に開示された。各課題の評価は書面審査およびヒアリング審査の評価を合計し、審査者の数で除するものとするのが決まっていた。グローバル共同研究の採択を決定後、学融合共同研究のヒアリングおよび評価を行なったが、方法はグローバル共同研究と同じである。

A.3 第 24 回

日時：平成 26 年 12 月 2 日（火）14:30~16:30

場所：AP 品川

主な議題

- 平成 27 年度学融合教育事業について（募集要項について）
- 平成 27 年度学融合研究事業について（継続事業の募集について）
- 萌芽的研究事業の改良について
- 学融合推進センター規則の改正について

A.4 第 25 回

日時：平成 27 年 2 月 25 日（水）16：00～17:30

場所：AP 品川

委員会開催に先立って、来年度の学融合レクチャーについてヒアリングを行った。

主な議題

- 平成 27 年度学融合レクチャー公募の採択・予算配分方針について
- 平成 27 年度学融合研究事業（継続分）の採択・予算配分方針について
- 平成 27 年度学融合研究事業（新規分）の公募について

A.5 第 26 回

日時：平成 27 年 3 月 18 日（水）13：00～16:00

場所：TV 会議

委員会開催に先立って、来年度学生企画事業についてヒアリングを行った。

主な議題

- 平成 27 年度学生企画事業公募のヒアリング審査について
- 平成 27 年度学融合推進センター事業について
- 平成 27 年度研究事業（萌芽的）の公募について
- 平成 27 年度研究事業（論文補助）の公募について
- プログラム委員会委員長の推薦について
- 教員の任期更新について
- その他

付録 B 全学事業担当教員会議記録

B.1 第 1 回

日時：平成 26 年 7 月 7 日（月）13：00-15：00

場所：品川インターシティ貸会議室 会議室 5

- 平成 26 年度 学融合推進センター全学事業について
- 平成 26 年度 学生セミナー協力のお願について
- 平成 26 年度 学生企画事業協力のお願について
- 平成 26 年度 新規学融合研究課題について
- 「その他」として学長から全学事業の位置づけと将来構想について説明があった。

なお、会議終了後に研究事業の公募説明会を開催した。

B.2 第2回

日時：平成26年10月8日（水）9：30～11:00（後学期学生セミナー2日目）

場所：葉山キャンパス 共通棟一階セミナー室 103,104

- 平成26年後学期学生セミナーの感想について
- 平成27年度以降の教育事業について
- 研究事業の活発化について
- 各種会議報告

付録C 教員研究活動報告（2014年）

専任教員の個人研究についての成果報告（2014年1月～12月）

■平田光司

1. (査読付き論文) 平田光司「トランスサイエンスとしての先端巨大技術」科学技術社会論研究 No.11 (2014) 掲載決定
2. (査読付き論文) 標葉隆馬, 飯田香穂里, 中尾央, 菊池好行, 見上公一, 伊藤憲二, 平田光司, 長谷川眞理子「研究者育成における『科学と社会』教育の取り組み - 総合研究大学院大学の事例から」研究・技術・計画 vol. 29 (2/3) pp.90-105 (2014)
3. (学会報告) 高岩義信, 伊藤和行, 伊藤憲二, 受川史彦, 金谷和至, 九後汰一郎, 五島敏芳, 小長谷大介, 小沼通二, 田中希生, 田中正, 棚橋誠治, 難波忠清, 西谷正, 早川尚男, 坂東昌子, 平田光司, 吉川直志「湯川・朝永・坂田史料整理の意味すること - 史料整理の方法と実際およびその活用へ向けて」日本物理学会 28aAH-1 (2014 春・東海大学)
4. (学会報告) 平田光司, 高岩義信「坂田史料に見る原子核特別委員会と高エネルギー同好会」日本物理学会 28aAH-7(2014 春・東海大学)
5. (学会報告) 高岩義信, 平田光司「高エネルギー物理学研究者コミュニティ形成に 原子核研究所・電子シンクロトロンが果たした役割」日本物理学会 (領域 13 物理学史) 9PAC-4 (2014 秋 中部大学)
6. (学会報告) 中尾央, 標葉隆馬, 飯田香穂里, 菊池好行, 伊藤憲二, 平田光司, 長谷川眞理子「総研大における『科学と社会』教育プログラムの取り組み： 海外事例との比較を通じて」科学技術社会論学会第13回年次大会 (阪大 2014.11 月 15 日)
7. (学会報告) Iida K., Shineha R., Nakao H., Kikuchi Y., Ito K., Hirata K., and Hasegawa M. ““Science and Society” education for graduate students in natural sciences: A case at the Graduate University for Advanced Studies in Japan”, The 2nd International History, Philosophy and Science Teaching Asian Regional Conference, Taipei, Taiwan (4 December 2014)
8. (学会報告) 標葉隆馬, 飯田香穂里, 中尾央, 菊池好行, 伊藤憲二, 平田光司, 長谷川眞理子「研究者育成における『科学と社会』教育の取り組み - 総合研究大学院大学の事例」研究・技術計画学会

大29回年次大会、立命館大学びわこ・くさつキャンパス、2014/10/19

9. (学会報告) 標葉隆馬, 飯田香穂里, 伊藤憲二, 菊池好行, 中尾央, 平田光司, 長谷川真理子「科学
と社会」教育の現在～国内外俯瞰調査から～」日本科学史学会題61回年会、2014/5/25
10. (学会報告) 飯田香穂里, 標葉隆馬, 伊藤憲二, 菊池好行, 中尾央, 平田光司, 長谷川真理子「総
研大における「科学と社会」教育の試み」日本科学史学会題61回年会、2014/5/25

科研費等の獲得状況

- 科研費 基盤研究 (C) 「日本における高エネルギー物理学研究者集団の成立過程」 (課題番号
25350378) 研究代表者
- 科研費 基盤研究 (A) 「科学の多様な不定性と意思決定：当事者性から考えるトランスサイエ
ンス」 (課題番号 25242020) 研究分担者
- 科研費 基盤研究 (A) 「科学技術の不確実性と法的規制—学際的観点からの包括的制度設計の試
み (課題番号 25245014)」 研究分担者

■岩瀬峰代 (7月まで) 科研費等の獲得状況

- 科研費 挑戦的萌芽研究 「研究文化を表象する学術展示制作手法の開発と評価」 (課題番号：
24650522) 研究代表者

■奥本素子

1. (査読付き論文) 平井宏典・奥本素子「芸術祭モデルを援用した博物館における共創戦略」日本
ミュージアム・マネジメント学会 「日本ミュージアム・マネジメント学会紀要」(第二著
者), 分担ページ:6-7 ページ
2. (査読付き学会報告) Motoko Okumoto“The text mining of audiences’ narratives” Mu-
seum2015
3. (学会報告) 奥本素子・阿児孝之・加藤幸治「被災文化財資料の語りに関する定量分析」全日本博
物館学会第40回研究大会
4. (学会報告) 奥本素子・岩瀬峰代「科学的概念の共有化のためのアート作品の効果の分析」 日本
科学教育学会 第38回年会
5. (学会報告) 奥本素子・岩瀬峰代「PBLにおける議論スタイルの分析」 日本教育工学会第30回
全国大会
6. (学会報告) 奥本素子「柔らかな科学コミュニケーションにおけるミスコミュニケーションの可
能性」

科研費等の獲得状況

- 科研費 若手研究 (B) 「デジタルナラティブを利用した被災文化財情報の活用研究」 (課題番
号:24700889) 研究代表者
- 科研費 挑戦的萌芽研究 「研究文化を表象する学術展示制作手法の開発と評価」 (課題番号：
24650522) 研究分担者

■塚原直樹

1. (査読付き論文)Tsukahara N, Yuri T, Hideyuki K, Sugita S, “Light Transmission of the Ocular Media in Birds and Mammals”, *The Journal of Veterinary Medical Science*. 2014; 76(1): 93-5.
2. (学会報告) Tsukahara N, Sasahara H, Sugita S, “Crow can’ t discriminate between the real ham and replica under the minimal ultra violet light condition”, 26th International Ornithological Congress. August 2014. Rikkyo University. [ポスター発表]
3. (学会報告) Nakamura M, Yahata K, Urushikubo A, Tsukahara N, Tobe Y, Sugita S, “Numerical demonstration of inspiratory aerodynamic valving in Japanese Quail”, 26th International Ornithological Congress. August 2014, Rikkyo University. [口頭発表]
4. (学会報告) 塚原直樹・池谷和信・岩崎理沙・卯田宗平・奥本素子・小澤壯行・蕪山由己人・杉田昭栄・竹田努・田辺秀之・東城義則・中村敏和・西谷大・西山文愛・野林厚志・葉山美咲・藤木徳彦・松本悠貴・李銀玉・渡部鮎美、「カラスは食資源として利用できるか?」第2回カラスシンポジウム、宇都宮大 [ポスター発表]
5. (学会報告) 田辺秀之・塚原直樹、「カラスの初代培養細胞作成の試み」、第2回カラスシンポジウム、宇都宮大 [ポスター発表]
6. (学会報告) 蕪山由己人・塚原直樹・竹田努・杉田昭栄、「ハシブトカラス骨格筋中のタウリン含量と筋収縮」、第2回カラスシンポジウム、宇都宮大 [ポスター発表]
7. (特許) 生物排除装置, 特願 2014-118031, 平成 26 年 6 月 6 日出願
8. (特許) 生物排除装置, 特願 2014-265032, 平成 26 年 12 月 26 日出願

科研費等の獲得状況

- 受託研究費 「害鳥獣の排除用音声信号及び放射手段に関する研究」 540,000 円

■小松睦美

1. (査読付き論文)Komatsu M., Fagan T.J., Mikouchi T., Petaev M. I., and Zolensky M.E. 2015. LIME silicates in amoeboid olivine aggregates in carbonaceous chondrites: Indicator of nebular and asteroidal processes. *Meteoritics & Planetary Science*, 50. Accepted pending revision.
2. (査読付き論文)Mikouchi T., Komatsu M., Hagiya K., Ohsumi K., Zolensky M. E., Hoffman V., Martinez J., Hochleitner R., Kaliwoda M., Terada Y., Yagi N., Takata M., Satake W., Aoyagi Y., Takenouchi A., Karouji Y., Uesugi M., and Yada T. 2014. Mineralogy and crystallography of some Itokawa particles returned by the Hayabusa asteroidal sample return mission. *Earth, Planets and Space*, 66, article id.82.
3. (査読付き論文)Zolensky + 18 coauthors (Komatsu M. as 9th), 2014, Mineralogy and petrography of C asteroid regolith: the Suttle’ s Mill CM meteorite. *Meteoritics & Planetary Science*, 49. 1997-2016.
4. (学会報告) Komatsu M., Mikouchi T., Arai T., Fagan T. J., Zolensky M., Hagiya K., Ohsumi K., Karouji Y. 2015. Petrology of Two Itokawa Particles: Comparison with Equilibrated LL

- Chondrites. 46th Lunar and Planetary Science Conference, id. 1884.
5. (学会報告) Zolensky M., Mikouchi T., Hagiya K., Ohsumi K., Komatsu M., Le L. 2015. Evidence for Impact Shock Melting in CM and CI Chondrite Regolith Samples. 46th Lunar and Planetary Science Conference, id. 2261.
 6. (学会報告) Komatsu M., Mikouchi T., Arai T., Fagan T. J., Zolensky M., Hagiya K., Ohsumi K., Karouji Y. 2015. Petrography and TEM study of Two Itokawa Particles. Hayabusa 2014: 2nd conference of Solar System Materials, id. P-11.
 7. (学会報告) Komatsu M., Fagan T. J., Mikouchi T., and Yamaguchi A. 2014. Alteration sequence of CV3 chondrites: matrix textures and Raman spectroscopy. Antarctic Meteorites XXXVII, 45-46.
 8. (学会報告) 小松睦美, 荒井朋子, 山本彩, 三河内岳, 中村智樹, 廣井孝弘, 北里宏平. CV コンドライト隕石の水質変成と熱変成, 日本惑星科学 2014 年度秋季講演会紀要.

科研費等の獲得状況

- 科研費 若手 (B) 「太陽系初期の固体物質進化：彗星塵と小惑星物質の比較鉱物学」 課題番号 (24740358) 研究代表者

■ 菊池好行

1. (国際 WS 報告) Y. Kikuchi, “Evolving network of the sites of chemistry in Meiji and Taisho Japan, 1868-1926,” SOKENDAI-Singapore workshop, Yokohama, Japan. 2014 年 1 月
2. (査読なし招待論文) 菊池好行 「科学史というディシプリン？」 (特集 科学史技術史の現在・過去・未来 (1)), 科学史研究 [第 II 期] 23-25 頁. 2014 年 4 月.
3. (国際 WS 報告) Y. Kikuchi, The Chemical Laboratory as a Contact Zone at Tokyo University, 1885-1916,” SOKENDAI “Science and Society” Workshop (No. 1) “Observational and Experimental Objects: Science Studies of Materials and Instruments in the Laboratory and the Field,” Hayama, Japan. 2014 年 5 月.
4. (学会報告) 飯田香穂里 (登壇者), 伊藤憲二, 菊池好行, 標葉隆馬, 中尾央, 平田光司, 長谷川眞理子 「総研大における『科学と社会』教育の試み」 日本科学史学会年会 (酪農学園大学) 2014 年 5 月
5. (学会報告) 標葉隆馬 (登壇者), 飯田香穂里, 伊藤憲二, 菊池好行, 中尾央, 平田光司, 長谷川眞理子 「『科学と社会』教育の現在～国内外俯瞰調査から～」 日本科学史学会第 60 回年会 (酪農学園大学) 2014 年 5 月
6. (学会報告) 菊池好行 「水島三一郎の国際関係」 化学史研究発表会 (化学史学会年会) (広島工業大学広島校舎) . 2014 年 7 月
7. (学会報告) Iida K., Shineha R., Nakao H., Kikuchi Y., Ito K., Hirata K., and Hasegawa M. ““Science and Society” education for graduate students in natural sciences: A case at the Graduate University for Advanced Studies in Japan”, The 2nd International History, Philosophy and Science Teaching Asian Regional Conference, Taipei, Taiwan (4 December 2014)

8. (学会報告) 標葉隆馬 (登壇者), 飯田香穂里, 中尾央, 菊池好行, 伊藤憲二, 平田光司, 長谷川眞理子「研究者養成における『科学と社会』教育の取り組み—総合研究大学院大学の事例」研究・技術計画学会第 29 回年次学術大会 (立命館大学びわこ・くさつキャンパス)
9. (査読なし招待論文) 標葉隆馬, 飯田香穂里, 中尾央, 菊池好行, 見上公一, 伊藤憲二, 平田光司, 長谷川眞理子「研究者育成における『科学と社会』教育の取り組み - 総合研究大学院大学の事例から」研究 技術 計画, 29(2/3), 90-105 頁. 2014 年 10 月
10. (学会報告) 中尾央 (登壇者), 標葉隆馬, 飯田香穂里, 菊池好行, 伊藤憲二, 平田光司, 長谷川眞理子「総研大における『科学と社会』教育プログラムの取り組み: 海外事例との比較を通じて」科学技術社会論学会第 13 回年次研究大会 (大阪大学豊中キャンパス), 2014 年 11 月
11. (著書, 分担執筆) H. Cortazzi, ed., Britain & Japan: Biographical Portraits: Volume IX. Folkestone: Renaissance Books (2014 年 12 月). 範囲: Sakurai Joji (1858-1939): Leading Chemist and No Drama Specialist; and Edward Divers (1837-1912) and Robert William Atkinson (1850-1929): Influential Teachers of Chemistry in Meiji Japan.

科研費等の獲得状況

- 科研費 基盤 (B) 「近代イギリスにおける科学の制度化と公共圏」(課題番号: 26284088) 研究分担者
- 科研費 基盤 (B) 「日本化学の転換点としての 1930~60 年の比較科学史的研究」(課題番号 24300295) 研究分担者

■七田麻美子

1. (査読付き論文) 山本裕子, 七田麻美子「大学ゼミナールの研究活動におけるブレンディッドラーニング導入の効果と留意点」コンピュータ&エデュケーション 37, 61-66, 2014 年 12 月
2. (学会報告) 鹿住大助, 七田麻美子「大学教養課程における地域連携授業の実践」日本教育工学会第 30 回全国大会 2014 年 9 月 岐阜大学
3. (シンポジウムパネリスト) 「菅原道真『哭奥州藤使君』めぐる考察」国際シンポジウム「天神信仰と菅原道真」2014 年 11 月 早稲田大学

科研費等の獲得状況

- 科研費 基盤 (C) 大規模大学間連携における e ラーニングシステムの拡張性と自由度の検証と対策」(課題番号 24501174) 研究分担者

■桑島邦博

1. (査読付き論文) Goyal, M., Chaudhuri, T.K. & Kuwajima, K. (2014). Irreversible denaturation of maltodextrin glucosidase studied by differential scanning calorimetry, circular dichroism, and turbidity measurements. PLoS One 9, e115877.
2. (査読付き論文) Nakagawa, A., Moriya, K., Arita, M., Yamamoto, Y., Kitamura, K., Ishiguro, N., Kanzaki, T., Oka, T., Makabe, K., Kuwajima, K. & Yohda, M. (2014). Dissection of the ATP-dependent conformational change cycle of a group II chaperonin. J. Mol. Biol. 426,

447-459.

3. (学会報告) Kuwajima, K. "The problem of protein folding and its relationship to bioscience," Symposium 1C Protein folding and dynamics, The 4th Asia Pacific Protein Association (APPA) Conference, May 17–20, 2014, International Convention Center (ICC), Jeju, Korea.
4. (学会報告) Kuwajima, K. "The problem of protein folding and its relationship to bioscience," Sokendai Special Lecture, JSPS Summer Program, June 12, 2014, Shonan Village Center, Hayama, Japan.
5. (学会報告) Balachandran, M., Kuwajima, K. & Lee, J. "A contact-based topological quantity and its relationships with the folding kinetics of non-two-state and two-state proteins," The 14th KIAS Conference on Protein Structure, September 18–20, 2014, Korea Institute for Advanced Study (KIAS), Seoul, Korea.
6. (学会報告) Kuwajima, K. "The problem of protein folding and its relationship to bioscience," Seminar, October 31, Kusuma School of Biological Sciences, Indian Institute of Technology (IIT) Delhi, 2014, Delhi, India.
7. (学会報告) Kuwajima, K. "The problem of protein folding and its relationship to bioscience," Seminar, November 3, 2014, CSIR-Centre for Cellular & Molecular Biology (CCMB), Hyderabad, India.
8. (学会報告) Kuwajima, K. "The problem of protein folding and its relationship to bioscience," The Second International Symposium on Protein Folding and Dynamics, November 5–7, 2014, National Centre for Biological Sciences (NCBS), Bangalore, India.
9. (学会報告) Balachandran, M., Kuwajima, K. & Lee, J. "A contact-based topological quantity and its relationships with the folding kinetics of non-two-state and two-state proteins," The 7th Japan-Korea Seminar on Biomolecular Sciences—Experiments and Simulations, November 26–28, 2014, Korea Institute for Advanced Study (KIAS), Seoul, Korea.

科研費等の獲得状況

- 科研費 挑戦的萌芽研究「基盤研究(C)「速度データの相関解析に基づく非二状態蛋白質のフォールディング機構研究」(課題番号: 25440075) 研究代表者

付録 D 2014 年度行事日程

4月7-10日	前学期期フレッシュマンウイーク(2.1章参照)
4月23日	センター会議(第40回)
5月12日	センターホームページリニューアル
5月21日	センター会議(第41回)
6月18日	センター会議(第42回)
6月11日	JSPS サマープログラム開校式
6月11-13日	総研大レクチャー「国際コミュニケーション」(葉山)(2.5章参照)
6月17日	JSPS サマープログラム フェロー訪問先へ
6月23日	センター運営委員会(第22回)品川
6月24日	公募型研究事業募集開始(締め切りは8月8日)
7月7日	全学事業担当教員会議(第1回)および研究事業公募説明会

7月16日	センター会議（第43回）
7月19-20日	研究者入門（葉山）
7月23日	葉山セミナー 菊池好行（6章参照）
7月29日	UST-総研大「計算科学」共同セミナー（韓国テジョン市）8月1日まで
8月4日	2015年度前学期学生セミナー実行委員会の一時活動停止のメール配信（2.3章参照）
8月5日	センター運営委員会 品川（第23回）
8月19日	JSPS サマープログラム報告会（ホテルグランドパレス）
8月20日	センター会議（第44回）
8月25日	新規研究課題ヒアリングおよびセンター運営委員会 五反田（第25回）
9月11日	第6回企画会議 品川（4.7章参照）
9月17日	センター会議（第45回）
10月7-10日	後学期フレッシュマンウイーク
10月8日	全学事業担当教員会議（第2回）
10月11-12日	日本語講義（2.2章参照）
10月15日	JSPS サマー・プログラム 2015 連絡協議会（麴町）
10月22日	センター会議（第46回）
11月6-7日	第7回企画会議 国立天文台水沢（4.7章参照）
11月19日	センター会議（第47回）
11月25日	学融合セミナー 小松 睦美（6章参照）
12月2日	センター運営委員会（第24回） 品川
12月3日	27年度公募型教育事業募集開始
12月15日	大学院教育研究会 品川（3.3章参照）
12月17日	センター会議（第47回）
1月15-16日	公開研究報告会（葉山）
1月21日	センター会議（第49回）
1月23日	学生セミナー委員全体会議（品川）
1月28日	学融合セミナー 長門 洋平（6章参照）
1月31日	学融合レクチャー募集締め切り
2月5-7日	第8回企画会議 核融合科学研究所（4.7章参照）
2月7-8日	学生企画会議 岡崎
2月13日	研究事業継続申請締め切り
2月18日	センター会議（第50回）
2月22日	学生セミナー委員全体会議 品川
2月25日	学融合レクチャーヒアリング、センター運営委員会（第25回）品川
2月28日	学生企画事業募集締め切り
3月18日	センター運営委員会 TV会議（第26回）
3月23-24日	学術交流会

参考文献

- [1] 総合研究大学院大学学融合推進センター規則 平成22年3月25日 大学規則第1号 一部改正 23.3.28/24.5.14.
- [2] 総合研究大学院大学学融合推進センター運営委員会規程 平成22年3月25日 大学規程第1号
- [3] 学融合推進センター全学事業担当教員会議要項 平成25年6月1日 学長裁定
- [4] 特別経費「課程制大学院制度の実質化にむけた学長イニシアティブ事業」特別委員会細則第2条
- [5] 桂勲、岩瀬峰代「総合大学大学院学生セミナー -歴史と現在-」(2013年) CPIS Report-2013/02/001(Review)
- [6] 学融合推進センター「2012年度学融合推進センター年報」CPIS Report-2013/10/001(Review)

